

# 熊谷市

令和6年度

地域部活動推進事業に係る

実証事業報告会

令和7年2月14日

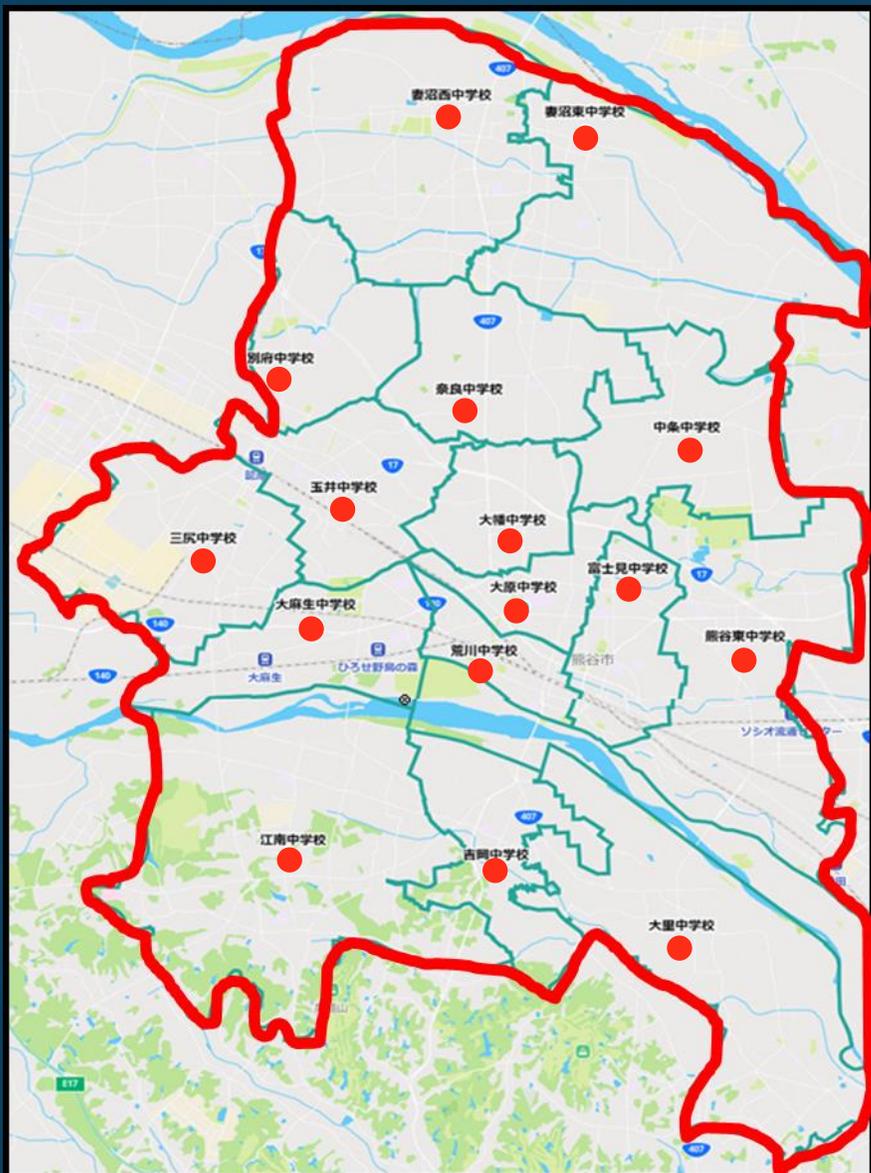
熊谷市教育委員会

# 本日の内容

- 1 熊谷市について
- 2 熊谷市の現状と課題
- 3 熊谷市部活動地域連携に向けた  
検討委員会
- 4 令和6年度の取組と今後の予定
- 5 実証事業について



# 熊谷市の現状



○中学校 16校

○生徒数 4,438人

○教職員数 約390人  
(管理職や養護教諭含む)

○運動部 163部活

○文化部 34部活

**合計197部活**

○運動部活動指導員 2名

○外部指導者運動部 50名、文化部 5名  
(予算は55名分)

# 熊谷市の課題①（少子化問題）

（児童生徒数 推移と将来推移）

	1982年 42年前	1987年 37年前	2018年 6年前	2024年 現在	2035年 11年後	2045年 21年後	2055年 31年後
児童数	19,018	16,708	9,556	8,535	6,761	5,963	5,115
生徒数	8,876	9,906	4,771	4,438	3,582	3,161	2,699
合計	27,894	26,614	14,327	12,973	10,343	9,124	7,814

1987年  
37年前  
**9,906人**



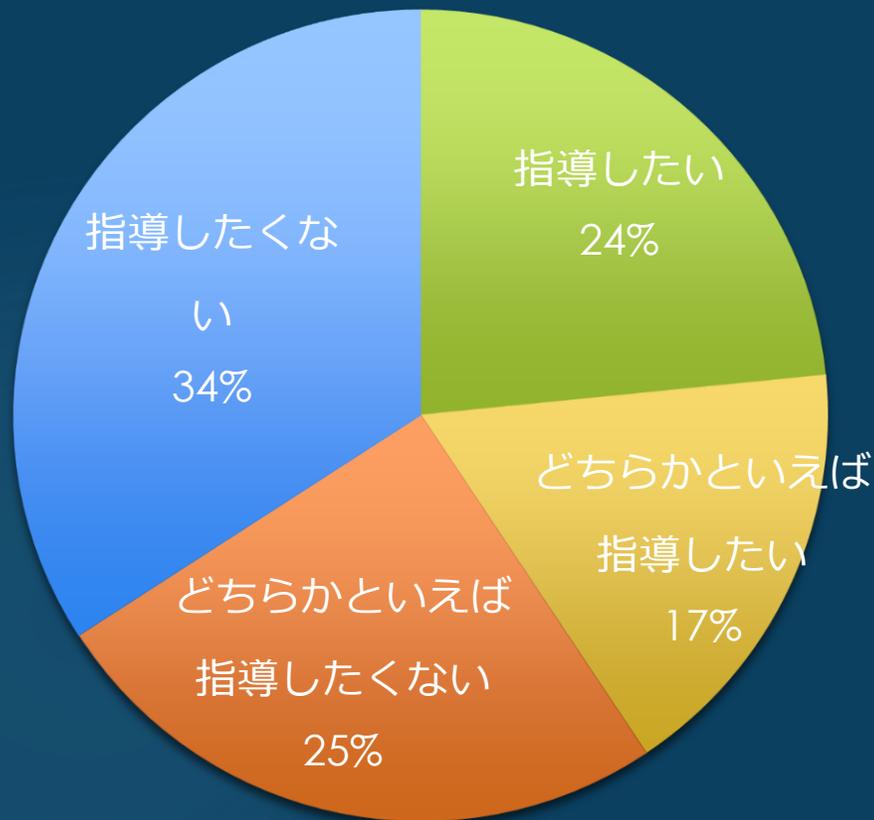
2024年  
現在  
**4,438人**



2055年  
31年後  
**2,699人**

# 熊谷市の課題② (教員の働き方)

(教職員 休日の部活動についての意識調査290名)



■ 指導したい ■ どちらかといえば指導したい  
■ どちらかといえば指導したくない ■ 指導したくない

○指導したい  
どちらかといえば指導したい

**41%**

○指導したくない  
どちらかといえば指導したくない

**59% (163名)**

○休日は休みたい 46.6%

○専門的知識がない 24.8%

# 熊谷市の課題

- 少子化の中でも**生徒**にとって  
望ましい持続可能な部活動の実施
- 先生方**の働き方改革の実現

2つの課題を同時に解決できる？

# 熊谷市部活動地域連携に向けた検討協議会

## 委員

- ・ 埼玉県スポーツ協会専務理事・熊谷市スポーツ協会専務理事
- ・ 熊谷市中体連会長・熊谷市部活動外部指導者代表
- ・ 熊谷市スポーツタウン推進課・熊谷市教育委員会
- ・ 部活動顧問代表・退職校長（熊谷市スポーツ協会・市教委）

## 調査研究

- ・ 部活動に関する  
実態調査等  
(教員・外部指導者)

## 持続可能な活動

- ・ 熊谷市の人材や財源の中で  
今後も持続できる活動の  
検討

部活動ガイドライン 熊谷モデル

# 持続可能な部活動のために、熊谷市で

○お金・・・ 指導者への謝金、施設使用料、  
**なるべくお金をかけない！**  
活動にかかる用具代等・・・

○人材・・・ **今ある人材を活用する！** 行う人

**今ある部活動を継続しつつ  
望ましい部活動の在り方を探していく**

# 令和6年度の取組と今後の予定

- 4月 埼玉県運動部活動推進事業 採択
- 5月 第1回部活動地域連携に向けた検討協議会
- 6月 補正予算成立
- 7月 実証開始（7月～12月の指定した土曜日）
- 3月 第2回部活動地域連携に向けた検討協議会予定





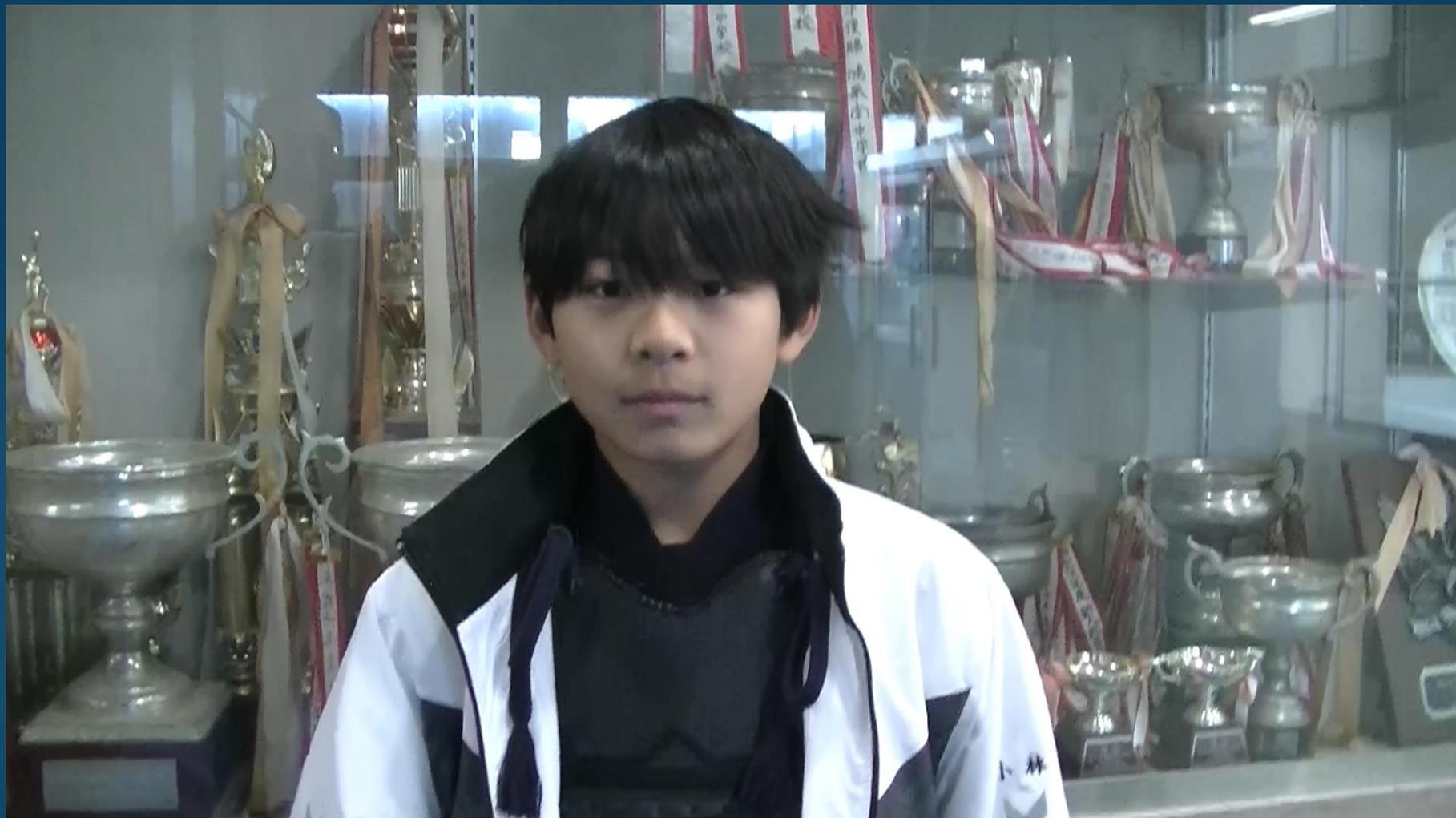
# 実証内容（活動の様子） 写真と動画

## 【剣道】



# 実証内容（活動の様子） 写真と動画

## 【剣道】



# 実証内容（活動の様子） 写真と動画

## 【剣道】



# 実証内容（活動の様子） 写真と動画

【陸上】



# 実証内容（活動の様子） 写真と動画

【陸上】



# 実証内容（活動の様子） 写真と動画

【陸上】



# 実証内容（活動の様子） 写真と動画

## 【ラグビー】



# 実証内容（活動の様子） 写真と動画

## 【ラグビー】



# 実証内容（活動の様子） 写真と動画

【ラグビー】



# 実証内容（活動の様子） 写真と動画

## 【ラグビー】



## 実証内容（成果と課題①） ○成果 ▲課題

○専門的な知識や技能のある指導者から、指導を受けることができた。剣道は1対1の稽古だけではなく昇級審査のための型の練習が必要となるため。

○市内16校すべての学校に案内をだしたところ、13校の生徒が応募した。近隣学校では、生徒を全員参加させ、学校での休日の活動を休みにして顧問が休むことができた。

## 実証内容（成果と課題②） ○成果 ▲課題

○部員数の少ない学校では、練習試合や他の学校に行く機会も少ないが、この事業に参加したことで、他の学校の生徒と交流することができた。

○昇級審査等で、他の会場に行ったとき、自分の学校の生徒は少なかったが、実証事業で知り合った生徒が多くいて心強かった。（実際の生徒の意見）

# 実証内容（成果と課題③） ○成果 ▲課題

## 1 今後事業を拡大するための課題

▲緊急時の対応

▲拠点校を増やしていく必要がある

▲指導者の確保

▲会場の確保

▲事業を運営していく財源

▲運営していく担当者の負担

御静聴ありがとうございました。

